

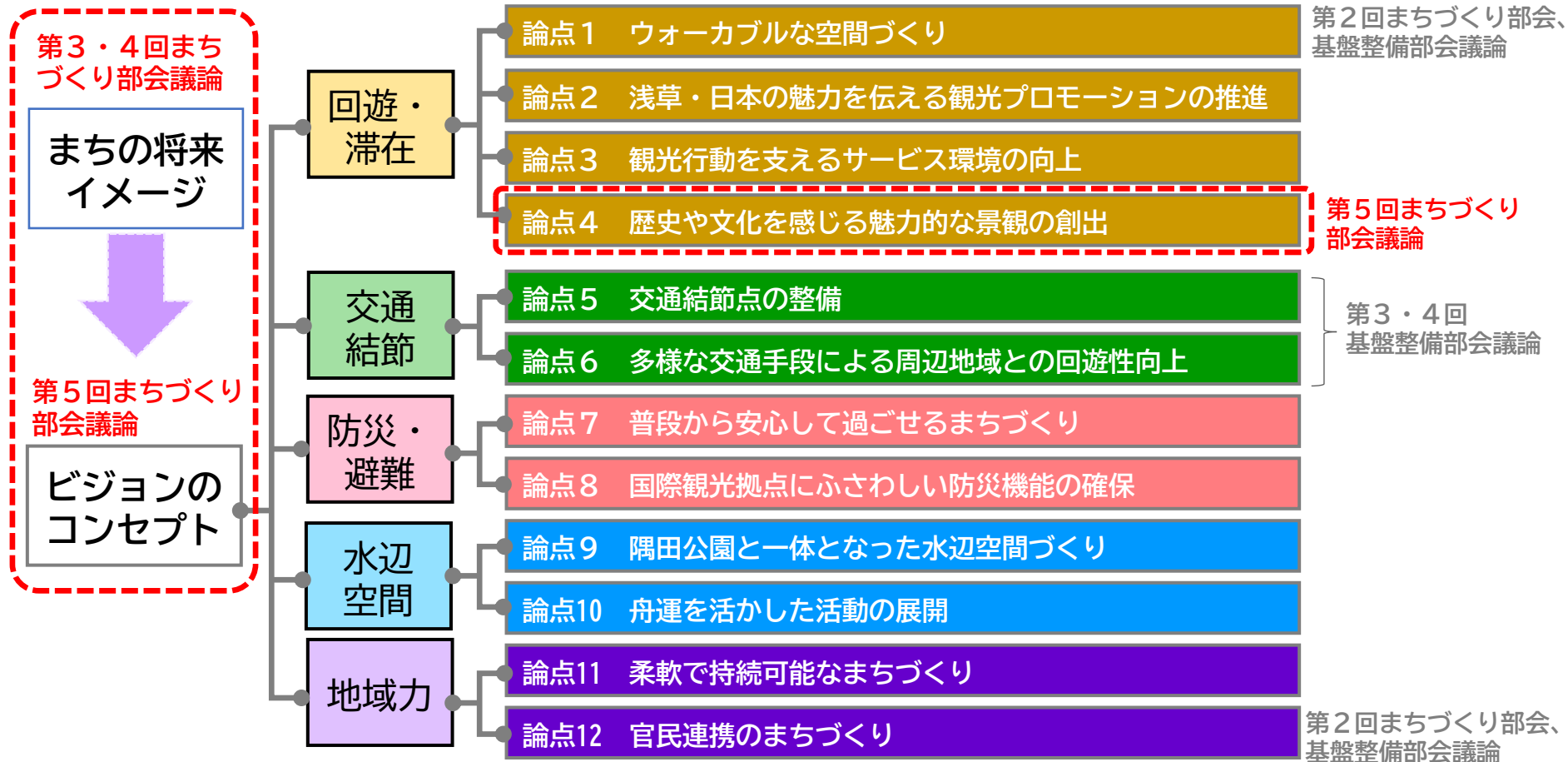
第4回浅草地区まちづくりビジョン策定委員会 資料3

まちづくり部会の検討状況について

2024年2月7日
台東区都市づくり部

議論の内容

- 今年度は、まちの将来イメージを踏まえ、「ビジョンのコンセプトの方向性」
「論点4 歴史や文化を感じる魅力的な景観の創出」について議論した

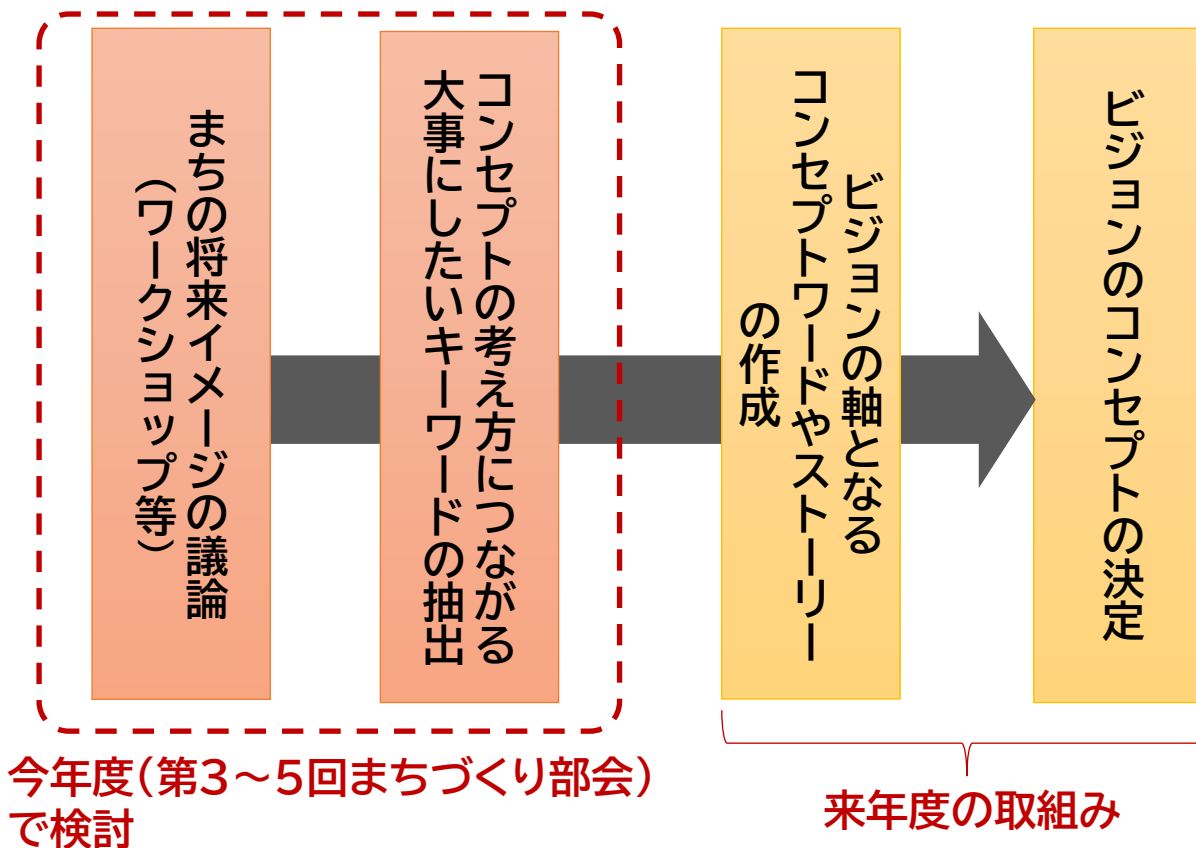


1. まちの将来イメージ・ビジョンのコンセプトについて

1-1. ビジョンのコンセプトの決定に向けた検討状況

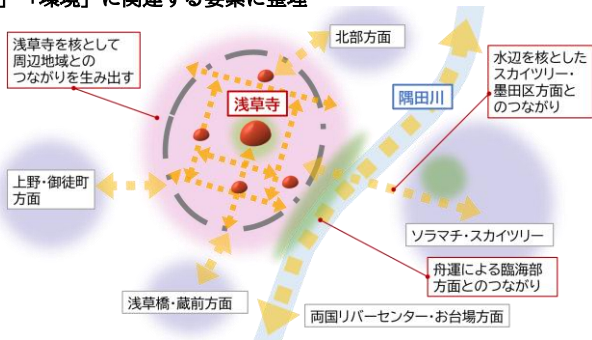
- ビジョンのコンセプトの決定に向けて、今年度は段階的に将来イメージにつながるキーワードを整理した。来年度は、コンセプトワードを作成し、ビジョンのコンセプトを決定していく

■検討プロセス



1-2. ビジョンのコンセプトの決定に向けた検討内容

- これまでの内容を踏まえて、まちを構成する「資源・場所」「通り・軸」「環境」に関連する要素に整理



資源・場所

- 世界に誇る歴史・文化を感じる浅草寺一帯
- 観光・商売・エンタメが強く結びついた中心部
- 食・芸能・花街の文化をもつ店舗や界限
- 落ち着いた佇まいを見せる建物
- 駅の乗換え利便性向上
- 利便性が高くまちの拠点となる、駅とまちが一体のまちづくり
- 広場のような雷門前の滞留空間づくり
- 駅周辺の滞留空間の確保

通り・軸

- 伝法院通り等の個性を感じるまちなみ
- 上野、スカイツリー等の周囲とのつながり
- 商店街の連続性を確保する低層部のルールづくり
- 憩い・安らぎを感じる水辺空間づくり
- 水上交通や船着場の利活用の活性化
- まちから隅田川へのつながりの創出
- サインの整理等による円滑な乗換え動線づくり
- 雷門通りの広場機能の向上

取り巻く環境（まちの変化）

- 東西南北の各方面との連続性や一体感を意識した新たな個性の創出
- デジタル化等の進歩やコロナ禍を経た新たな変化等に対するまちの機能の充実
- 首都直下型地震や激甚化・頻発化する水害等のリスクへの対応

地域の課題

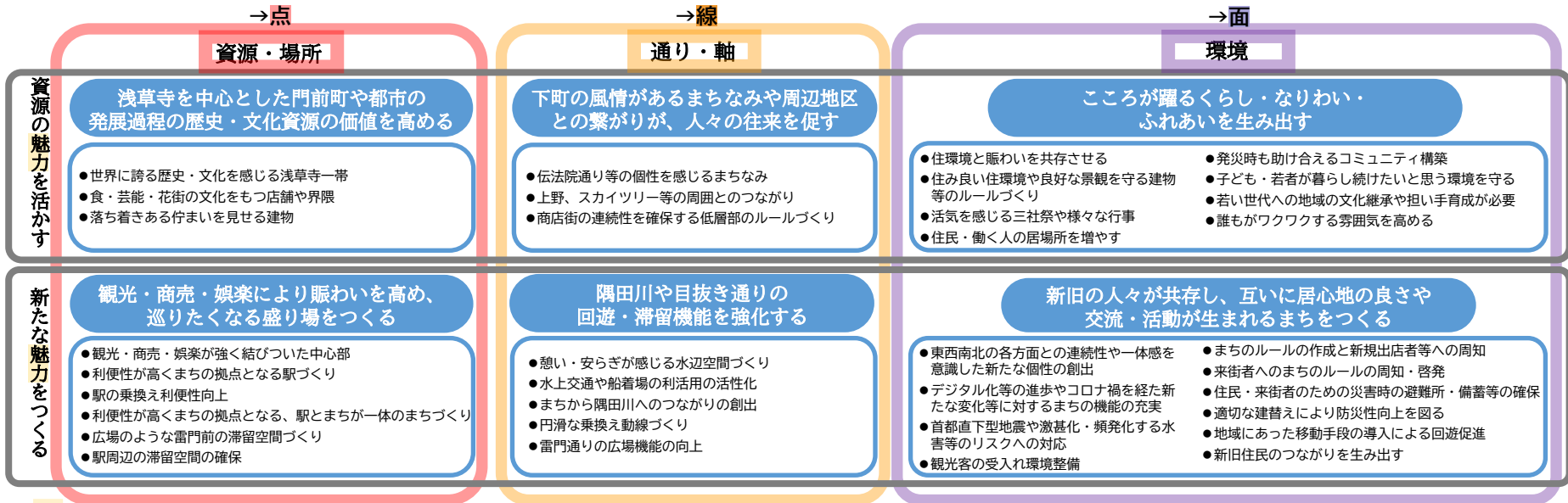
- 観光客の受入れ環境整備
- まちのルールや新規出店者等への周知
- 来訪者へのまちのルールや啓発
- 住環境と賑わいを共存させる
- 住み良い住環境や良好な景観を守る建物等のルールづくり
- 適切な建替えにより防災性向上を図る
- 住民・来街者のための災害時の避難所・備蓄等の確保
- 地域にあった移動手段の導入による回遊促進

まちに関わる人々の思い

- 活気を感じる三社祭や様々な行事
- 新旧住民のつながりを生み出す
- 住民・働く人の居場所を増やす
- 発災時も助け合えるコミュニティ構築
- 子ども・若者が暮らし続けたいと思う環境を守る
- 若い世代への地域の文化継承や担い手育成が必要
- 誰もがワクワクする雰囲気高める

※上記内容は、まちづくり部会やまちづくり推進協議会におけるワークショップでのご意見等にもとづく

- 関係者の思いをもとにキーワードを抽出し、点・線・面の視点から浅草地区の魅力向上のコンセプトづくりに向けた3つの方向性を再整理



縦軸の「魅力」の表現を深度化して、下記のとおり再整理する。

● 魅力を明確にする
→際立たせる

● 魅力ある空間の質や人の心（ホスピタリティ）を向上させる
→磨き上げる

● これらを空間的・精神的につないでいく
→結わえる

1-3. 今後の検討で留意する主な意見

■大事にしたいまちづくりのキーワードについて

- 「義理と人情のまち」といったイメージがあり **ホスピタリティを大事**にしている
- **「世界から見た浅草」**といった外部の視点を重視することが求められるまちである
- **伝統を守る一方で、社会状況や経済状況の変化に対応して時代の波を受入れてきた懐の深さが浅草らしさなのではないか**
- 20年後に向けてすぐやるべきこと、20年後そうなっていれば良いということを整理して、**時系列に取組みのあり方を考えていけると良い**

■基盤整備について

- 雷門通り、新仲見世通りの混雑が激しいので、**広場のような場所が必要である**
- 東参道・二天門通りの沿道は花川戸公園や旧保健所等の区の施設が多い。雷門から川までの距離も実際より遠く感じる。**浅草寺と水辺のつながりを意識した再整備の方向性を打ち出してはどうか**
- まちづくり部会において、**交通拠点整備の議論の内容を、まとまった段階で紹介してほしい**

■景観について

- 地区内には老朽化が進んでいる建物が多く、近い将来建て替わりが進む可能性が高い。**シンボルとなる建物の保全や、まちなみや屋外広告物の誘導に関するルールを強化するなどが必要**なのではないか

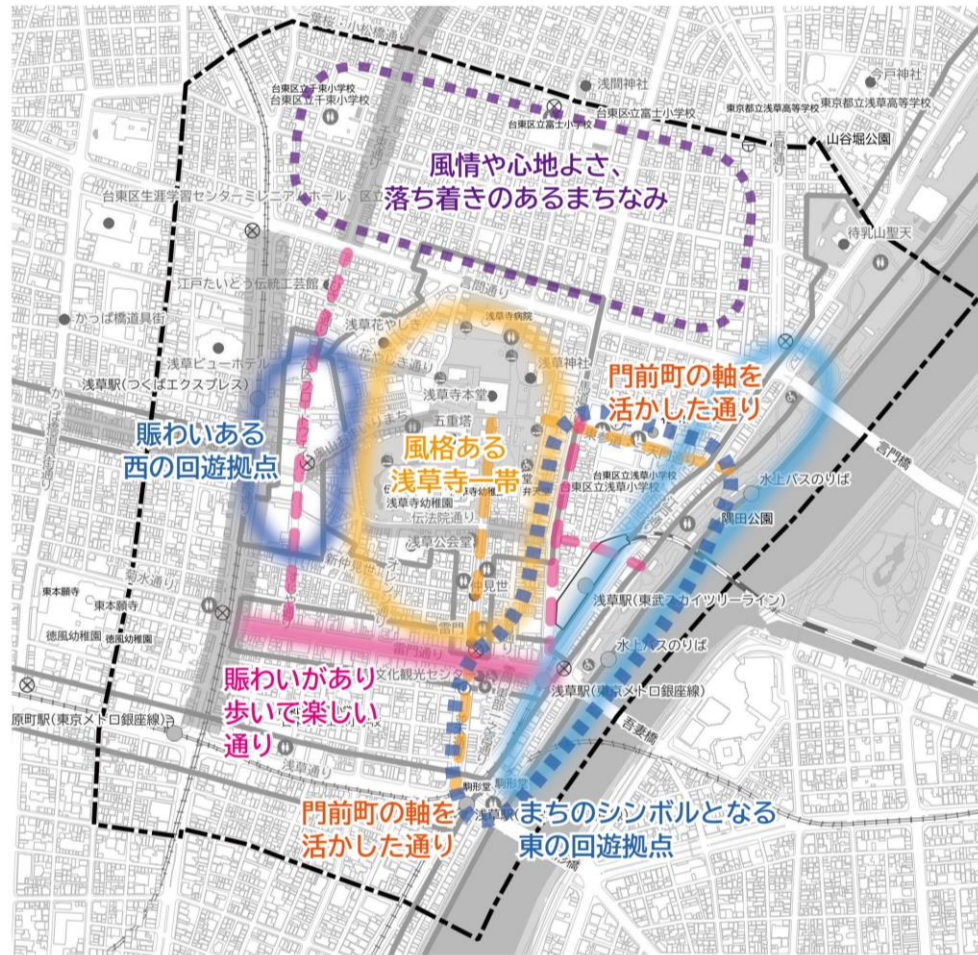
2. 論点4（景観）の検討状況

2-1. 将来に向けた取組みの方向性

地区全体の景観イメージ（案）

- 景観計画で定める景観軸や景観形成特別地区に加え、さらに重点的に景観の取組みを進めていくエリアや通りを下図のように提案した。今後、議論を進めていく。

重点的に取組むエリアの景観イメージ（案）



景観計画で定める景観基本軸や景観形成特別地区のうち
さらに重点的に取組む通りやエリア（案）

- 風格ある浅草寺一帯
- 賑わいある西の回遊拠点（六区地区周辺）
- まちとの連続性を意識した水辺空間（隅田川周辺）
- 賑わいがあり歩いて楽しい通り（雷門通り）

景観計画で定める景観基本軸や景観形成特別地区に加え
新たに重点的に取組む通りやエリア（案）

- まちのシンボルとなる東の回遊拠点（浅草駅周辺）
- 風情や心地よさ、落ち着いたあるまちなみ
- 賑わいがあり歩いて楽しい通り（ひさご通り～六区ブロードウェイ～すしや通り・馬道通り・伝法院通りから隅田川へつながる通り）
- 門前町の軸を活かした通り（仲見世～並木通り・東参道・二天門通り）

既存の景観基本軸・景観形成特別地区・景観まちづくり協定等

2-2. 今後の検討で留意する主な意見

■魅力的な景観の創出について

- 浅草寺の背後景観については保全の必要性が示されているが、**本堂や仲見世の両脇も建替えや景観上目立つ広告物等があり、地域のルールが必要なのではないか**
- 伝法院通りの景観協定のように、建替えにあわせた良好な景観づくりの推進に向けて、**区も積極的にルールづくりや助成金等の支援**をしてほしい